

レポート
国際アルツハイマー病協会国際会議イベント
きょうと世界アルツハイマーデー記念フォーラム
ーともに新しい時代へ京都から世界へー

平成28年9月19日（月・祝）

13:00～16:00

京都テルサホール

<フォーラム開催趣旨>

私たちは今、どういう時代を迎えようとしているのでしょうか。全国の認知症の人は2012年には約462万人でしたが、団塊の世代が75歳以上になる2015年には約700万人、65歳以上の5人に1人に達すると言われています。

認知症はメディアにも度々取り上げられ、身近な病気だということは広く知られるようになりましたが、正しい知識や理解が広まっていないことから、必要な支援に出会えていない方はまだ多くおられるのではないのでしょうか。

認知症の人は「何もわからない」「何もできない」わけではありません。周囲の人の正しい理解のもと、住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、ここ京都では認知症の私を主語にした10項目のアイメッセージ（認知症の人とその家族が望む社会）を掲げ、当事者視点での取組を進めています。

このような中、来年4月に「国際アルツハイマー病協会国際会議（ADI国際会議）」が京都で開催されます。当国際会議は「認知症」がまだ「痴呆」と呼ばれていた2004年にも京都で開催され、認知症が社会に広く認識されるきっかけとなり、3か月後に「痴呆」は「認知症」へと呼称変更されました。

本フォーラムにより京都の当事者視点の取組が促進され、今回の国際会議に繋がり、「何もできない」から「認知症になっても幸せな人生を送ることができる」へとイメージが変わることを期待します。

<プログラム>

13:00～ オープニング

本人、家族、支援者による合唱団『はるか』

13:15～ 主催者挨拶

13:25～ パネルディスカッション1

「日本の当事者団体・あつまる」

認知症の本人・介護者の当事者5団体が集まり、それぞれの思いや活動を発表

14:45～ パネルディスカッション2

「アイメッセージをかなえる京都の取組」

認知症の人とその家族が目指す社会を記した『アイメッセージ』

医療・介護・地域の支援者が当事者の思いに沿った取組について発信

<オープニング>

本人、家族、支援者による合唱団『はるか』による合唱が行われました。



<指揮者：国立病院機構京都医療センターの音楽療法士 飯塚 三枝子氏>

今日ここには、認知症の人と家族の会を支えるいろいろな部門のいろいろな活動をしていらっしゃる方々が、名古屋、東京、等遠方からもたくさん来ていただきました。この70名近い皆さんは、全く練習をしておらず、ここで初めて合わせたのですが、素晴らしい出来でした。息を合わせるというのは、素晴らしいアンサンブルという一つの方法なのです。息を殺して、フーワーと言うだけでも、人は合わせることができます。声を出していただくのは非常に大事なことだと思います。

